東日本大震災
宮古市の記録

第2巻（上）《復興・防災編》

岩手県宮古市

東日本大震災
宮古市の記録

第2巻(上)《復興・防災編》

岩手県宮古市

表紙写真（上から）
2011 年 3 月 15 日　田老　防潮堤から被災したたろう観光ホテル、乙部方面を望む
撮影：宮古市
2014 年 12 月 6 日　田老　防潮堤からたろう観光ホテル、造成が進む乙部高台を望む
撮影：宮古市
2016 年　6 月 8 日　田老　防潮堤から三王団地（乙部高台）を望む　撮影：宮古市

刊行にあたって

宮古市長　山本正徳

このたび、「東日本大震災 宮古市の記録　第2巻」の発刊にあたり、改めてこの震災により犠牲になられた皆様のご冥福をお祈り申し上げます。

当市は、平成24年7月に宮古市東日本大震災復興計画を策定し、「すまいと暮らしの再建」「産業・経済復興」「安全な地域づくり」の3つを復興の柱として取り組んでまいりました。「安全な地域づくり」では、取り組みの方向の一つに「災害記憶の後世への継承」を掲げ、平成24年度より宮古市東日本大震災記憶伝承事業として、震災関連資料の収集や体験談の聞き取りを進めてまいりました。平成25年度には「東日本大震災 宮古市の記録　第1巻」《津波史編》を刊行し、東日本大震災に限らず津波常襲地帯と言われた当地方の津波被害の写真や資料を収録いたしました。

今回の第2巻（上）《復興・防災編》、（下）《記憶伝承編》は、震災の記憶を後世の教訓に生かすことを主眼に、被災者の皆さま、救助者、支援者、事業者など多くの皆さまの経験や取り組みを記録するものです。

上巻では、「第1部　震災と復興の記録」において、震災時の避難、ライフラインの復旧や救援物資、支援など応急復旧の概要を整理し、宮古市の復興への取り組みを収録しました。「第2部　防災とコミュニティ」では、今後の防災への観点から宮古市の震災対応や復興計画、まちづくりの取り組みを振り返りました。

下巻では、民俗学の手法により多くの皆さま方の実体験を聞き取り、第1部では「各地域における東日本大震災」として、地域ごとに津波の体験談を収録しました。第2部では「各分野での取組み」として、医療、障がい者・高齢者、子ども、消防・警察・自衛隊、ボランティア、観光などを主なテーマに、震災時の対応と取り組みで構成いたしました。

本記録誌は、当市における東日本大震災の記憶として、災害に強いまちづくりの研究や、防災教育などに末永く活用されることと思います。

末筆となりますが、本記録誌作成にあたりご尽力いただいた、宮古市東日本大震災記録編集委員会の神田より子委員長並びに南正昭副委員長をはじめとする委員の皆様、取材に応じて体験を語っていただいた皆様、各種資料・記録の収集にあたりご協力いただきました関係機関の皆様に厚く御礼を申し上げ、刊行のごあいさつといたします。

平成29年3月